GROUP EXHIBITION

RE: FOCUS vol.6

Artists

Yoshiyuki OOE / Atsuo SUZUKI / Masaaki SUZUKI
Yasuko HIRANO / YU SORA / Naosuke WADA

Period

January 24 - February 22, 2025

Open

PM 12:00 - PM 19:00 / Closed: Sun, Mon, Holidays

Venue

TEZUKAYAMA GALLERY / Viewing Room

TEZUKAYAMA GALLERYでは2025年1月24日よりグループ展「RE: FOCUS vol.6」を開催いたします。

本企画は、これまでにギャラリーが紹介してきた作家・作品を改めて選出し、その魅力を再発見する試みです。
今展は2025年最初の展覧会となるので「去年を振り返る」という意を含んで企画いたしました。
昨年の活動を総括するとともに、アーティストたちの多様な表現の可能性を再確認する場となるでしょう。

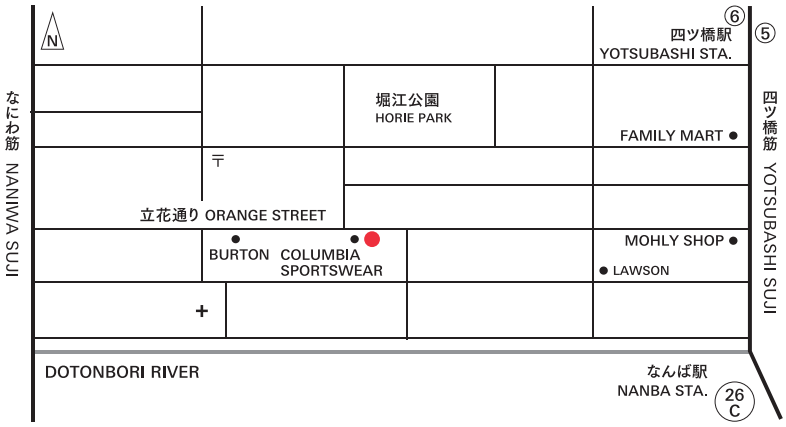
第6回目となる今回は大江慶之、鈴木淳夫、鈴木雅明、平野泰子、YU SORA、和田直祐の6名のアーティストをご紹介します。

本展覧会、ぜひこの機会にご高覧賜りますようお願い申し上げます。

Group Exhibition

RE: FOCUS vol.6

2025.1.24 fri - 2.22 sat



OPEN: Tue - Sat 12:00 - 19:00 | CLOSED: Sunday, Monday and Holiday
Contact: info@tezukayama-g.com / TEZUKAYAMA GALLERY 山本

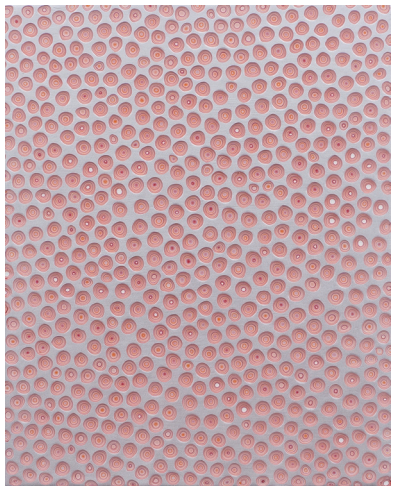
〒550-0015 大阪市西区南堀江1-19-27山崎ビル2F
Yamazaki Bldg. 2F, 1-19-27 Minami-Horie, Nishi-ku, Osaka, 550-0015 JAPAN
t: +81 6 6534 3993 | e: info@tezukayama-g.com

大江慶之｜Yoshiyuki Ooe

1980年、大阪府生まれ、在住。成安造形短期大学造形芸術科専攻科卒業。
平面、立体作品を並行して制作。視点を変えることで、イメージが持つ意味や認識が変化することをテーマに作品を制作。体操服を着た少年のモチーフ等あどけなさや無邪気さという印象と、ある種の虚無感や哀愁といった要素が同居した作品を手がけてきた。 近年は海外でも精力的に作品を発表している。

主な展示に、「Chimeric Sculpture Expression」AKI GALLERY(台湾 2024)、「PONCHAN des CHANPON-ほんの小さな出来事に」KYOTO ba(京都 2023)、「くちびるがお好みの味すんねん」TEZUKAYAMA GALLERY（大阪 2022）、「ぐるぐるとフック」TEZUKAYAMA GALLERY（大阪 2021）、「昨日はどんなARTを観ていましたか」SkiiMa Gallery（大阪 2023)など。

鈴木淳夫｜Atsuo Suzuki



1977年、愛知県生まれ、在住。静岡大学大学院教育学研究科を修了。
自身の作品を「彫る絵画(Carved Painting)」と称し、幾重にもパネルの上に塗り重ねた絵具の層を彫刻刀で削り出すことで様々な図柄を描く作風で制作を重ねている。
鈴木が作り出す画面は作家の息づかいすらも感じ取れる程の鮮明な行為の痕跡として鑑賞者に提示され同時に「彫る」という反復行為によって顕在化した絵具の断層は、作家が作品と対峙した膨大な時間を物語っている。

主な展示に、「彫る絵画」ギャラリーサンセリテ（愛知 2024）、「カクカクとうねうね」ギャラリー麟（東京 2024）、「PLAY2」AIN SOPH DISPATCH（愛知 2024）、「切磋 - 絵画の証Ⅳ」TEZUKAYAMA GALLERY（大阪 2024）、「彫る絵画 - PLAY」TEZUKAYAMA GALLERY（大阪 2024）など。

鈴木雅明｜Masaaki Suzuki

1981年、愛知県生まれ。2004年名古屋造形芸術大学洋画コースを卒業し、2008年に愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。
「人工の光」をテーマに作品を制作。実見した風景をキャンバスに描き起こしていく中、作家の心緒や筆致が重なることで視認した光景以上に人間の営みを想起させる画が完成する。鑑賞者は自身の体験・記憶から各々の情景を想像する。見慣れた日常が鈴木の絵画を通すことで新しいものとして甦り、いまを見つめ直す機会となるだろう。

主な展示に、「Follow the Reflections」TEZUKAYAMA GALLERY（大阪 2024）、「Artificial Light」銀座蔦屋書店（東京 2023）、「都市の光 / 机上の光」神戸元町歩歩琳堂画廊（兵庫 2022）、「軌をたどる– 5人の画家たちの “あれから” 」 清須市はるひ美術館(愛知 2022)、「机上の光」ガレリアフィナルテ(愛知 2021)など。

平野泰子｜Yasuko Hirano

1985 年富山県生まれ、神奈川県在住。京都精華大学芸術学部造形学科洋画専攻を卒業。
木製パネルにキャンバスを張り、膠と石膏で下地を施し、乾燥後に入念に研磨したのちに、三原色の油絵具を画面上で塗りあわせていく。平野の作品を観賞する際に感じる多層感は、絵具の物質性だけでなく、いつか見た風景を現在の平野が描くことで時間という概念を作品内で重ねあわせていることや作品の根底にある「風景」に身体的な要素から精神的な要素までもが含まれているからではないだろうか。

あらゆる視点から描かれた作品は一個人の枠組みから離れ、世の中を映す拡大鏡となり、まだ名が付けられていない現象の存在を見つけ・強度を持たせるためのきっかけとなる。

主な展示に、「Gesture」ARTDYNE（東京 2024）、「Remaining Fragments」CADAN有楽町（東京 2024)、「山ではなく頂が平面であること」TEZUKAYAMA GALLERY（大阪 2023）、「Two eyes」銀座蔦屋書店 アートウォールギャラリー(東京 2023)、「YASUKO HIRANO EXHIBITION “UNFOLD ROOM”」Gallery stoop(東京 2020)など。

ユ・ソラ｜YUSORA

1987年韓国•京畿道生まれ。2020年に東京藝術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程を修了。
YU SORAは日本と韓国を拠点に、災害や事故などで突然失うこともある日常や些細な日々をテーマに、白く柔らかい布に黒い糸で刺繍を施し、日常の風景を記録するような立体・平面作品を通じて、日常とは何かについて問い直すような空間をつくりだしている。

主な展示に、「もずく、たまご」資生堂ギャラリー(東京 2023)、「BankART Under35」BankART KAIKO(横浜 2022)、「些細な記念日」ナムドンソレアートホール(仁川 2021)、「普通の日」あまらぶ アートラボ A-lab(兵庫 2021)、些細な記念日Gallery Lotte(ソウル 2018)、など。
主な受賞歴に、「Sanwa company Art Award グランプリ」2022、「第68 回東京藝術大学修了作品展 買上作品」2020、「第68 回東京藝術大学修了作品展 杜賞」2020、「Tokyo Midtown Award 優秀賞」2018、など。

和田直祐｜Naosuke Wada

1983年、兵庫県生まれ。京都造形芸術大学(現: 京都芸術大学)大学院修士課程芸術研究科芸術表現専攻ペインティング領域を修了。
「グレージング」という古典技法を参照し、それを現代的なメディウムに置き換えて制作。光と空間をテーマに、高透明の樹脂塗料を用いてレイヤーを構築することで、透過効果による流動性を伴う絵画の創出を試みる。幾重にも重ねられたレイヤーの形や色が、時間や場所によって変化する光を取り込み続け内部に内包する事で、鑑賞される度に作品は微量に変化する。

主な展示に、「Intervals: Distance」KOKI ARTS(東京 2024）、「From the Oblivion - 忘却の記憶」POOL SIDE GALLERY（石川 2024）、「The Echo of East Kyoto」WHAT CAFE(東京 2024)、「切磋 - 絵画の証IV」TEZUKAYAMA GALLERY(大阪 2023)、「Pathway」TEZUKAYAMA GALLERY(大阪 2022)など